

「ふるさと春日井学」研究フォーラム

Forum for Furusato Kasugai Studies

「ふるさと春日井」まちづくりへの応援メッセージ

『ふるさと意識なくして地域の創生なし』

会報

NO. 29

2015.7.31発行

編集責任：河地 清

Kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp

第29回「ふるさと春日井学」研究フォーラム

テーマ『ふるさと春日井の特色ある文化一書の魅力 II』

7月5日（日）市民活動支援センター（ささえ愛センター）において「ふるさと春日井学」研究フォーラムをテーマ『ふるさと春日井の特色ある文化一書の魅力』で開催しました。講演は、中部大学講師（総合芸術論）・書家の原田凍谷氏に『ふるさと春日井の特色ある文化一書の魅力II』と題して「空海と小野道風」の書について講演いただきました。講演の後、書の魅力について、このこの二人の書の違いを臨書していただきながらわかりやすく解説していただきました。会場は満席で先生の語りと揮毫風景に釘付けになり書の魅力を満喫することができたフォーラムでした。

報道記者も含めて、市民55名の参加がありました。



-発表要旨-

I 王羲之の書で「喪乱帖」を一字ずつ拡大してその美しさを見せた。空海(774-835)は24-5歳にはもう王羲之(303-361、諸説あり)の書が頭に入っていた。王羲之の書は現存はなく、**双鉤填墨の技法**で精巧に写したもののだけとなる。太宗皇帝(596-649、皇位 626-649)は能書家であった。有名な書のコレクションに精を出し、太宗の死後「蘭亭序」の真筆は皇帝自身の墓昭陵に副葬させたという。

「蘭亭序」は神品といい、王羲之でさえ、何度書いても越えられない境地といった。

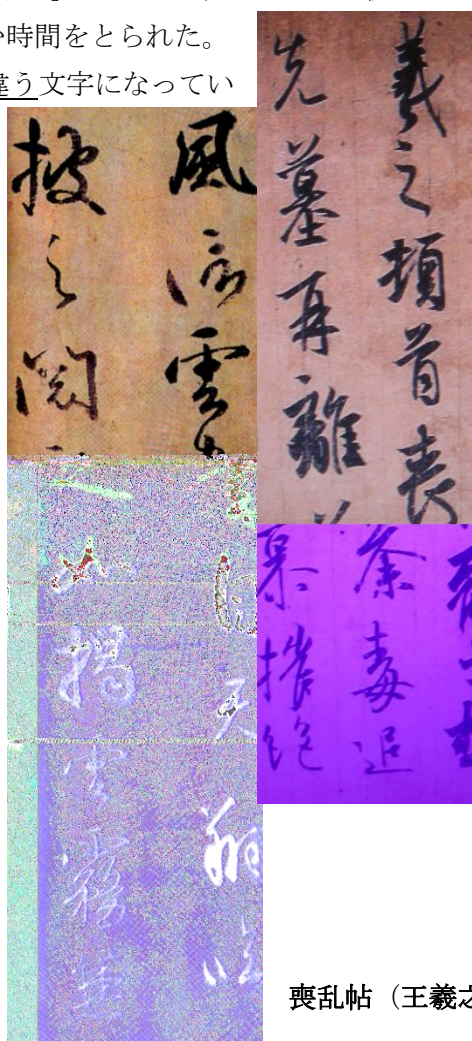
自然でありながら変化が大きいという。その「蘭亭序」の全文を印刷(A3で2枚)し配られた。下段に大意が書かれ、各自読んで下さいと読む時間をとられた。

下書きとしてスラスラ書きながら、その文字は全部違う文字になっている点を説明し、空海の文字に影響を与えていることを話された。

II 空海の文字は小を拡大しても素晴らしい。直線と曲線で完全に組み合わせて一字を創り、「披」の字は「偏(ヘン)」はシンプルに直線で書き、「旁(ツクリ)」は曲線で書かれていると、「風信帖(じょう)」の文字の特徴を説明された。書の魅力、創美の世界を素人にもわかりやすく説明いただいた。「風信帖」は空海から最澄への手紙で、短時間で書かれながら、王羲之の生き写しのような字であった。

それ以前の空海は遣唐使として、苦難の渡航の話や、たった2年ですべての密教を修得し、世界でたった一人の密教の伝承者として帰国したこと、台蜜最澄とすべての密教を修めた空海との関係も興味深い話であった。

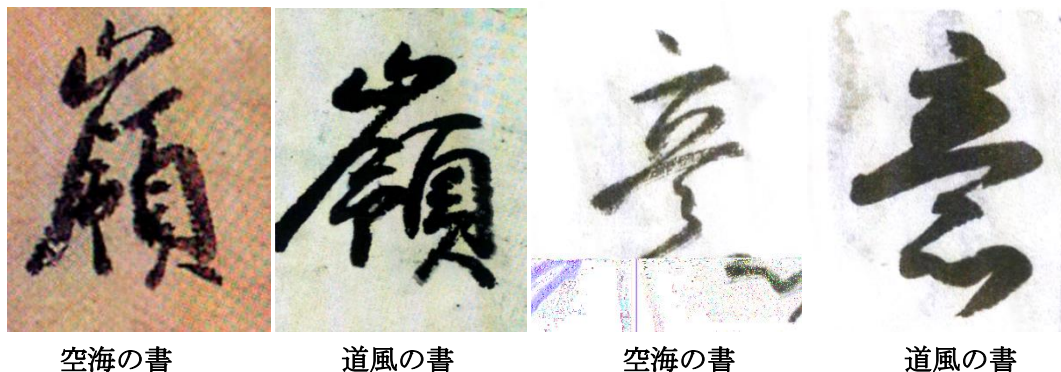
III 道風は「和様の書」の筆使いであることを、「智証大師諡号勅書」や「屏風土代」などの字で説明された。この筆使いは遣唐使の停止(廃止)以後の国風文化の中でできてきたものである。道風の「屏風土代」の中の「嶺」の字は横画が水平に対し、空海は右上がりであり違いが明白。「意」の字は、道風の字では筆が返らないで下まで書く動きがある。空海の字は右上に上がるため、筆が転折で返っている。空海は「かすれ」が出て立体感があるが、道風の字では同じ筆の面で線



喪乱帖 (王羲之)

風信帖 (空海)

を引くことで、まっ黒になり重量感が出ている。道風は空海の手も王羲之の手も学んでい
 はずである。「玉泉帖」の字は、筆使いが自由に使えたが、道風による挑戦というような創
 意に満ちたもので、自在な転開が見事である。

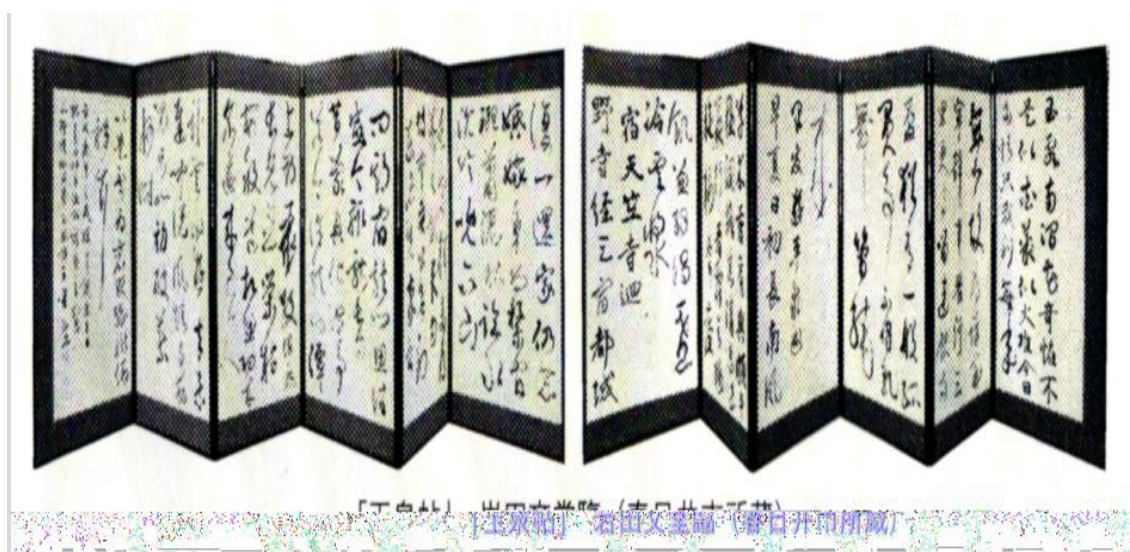


「秋萩帖」は和様のいいところ、「角」の曲がり方が進化して
 いる。「起」の字では、折り返さなくてもよいように書いている。
 道風が仮名を書いたかどうかは別にして、延長線上の動きだ。道
 風の和様が含まれることで仮名につながっていった。また、「ち
 らし書き」はムダがなく、変化に富んでいる。日本独自の空間美
 である。和様の書から仮名への動きにつながる筆使いで一世を風
 靡した大事な人がこの春日井で生まれたということになる。

書の造形の技術的レベルは、「転折の内にある」と結ばれた。

(記録：塚田忠雄)

OPINION 『ふるさと春日井「書の風景」』



小野道風筆「玉泉帖」「三體白氏詩卷」各々大画仙六曲二双(巾 11 寸)臨書作品が春日井

市役所に所蔵されています。春日井市の書家故岩田文堂氏が寄贈したものです。

平成2年6月、150億円を投じて建設された12階構想市庁舎完成開館に当たって当時の鈴木義男市長は、春日井市の顔として小野道風を文化の中心としたまちづくりを構想されていきました。揮毫された作品は、市所蔵として市の重要企画イベントの折に市民に披露されています。書のまち春日井の原点はこの辺にありそうです。そして「小野道風」は春日井市の歴史的シンボルとして今日まで市民に親しまれ「書のまち」が意識されてきています。

現在春日井市が「書のまち」「小野道風」のイメージで全国にその知名度が広がっていることは、素晴らしいことだと思います。まちづくりの基本は「歴史」と「文化」が中心であることを考えたときに、我がふるさと春日井の「書のまち」は、自信をもって今まで以上に発信を続けて行くことが特色ある文化都市としての大きな魅力となるはずですよ。

現在行政を中心に行っている書関連の企画および活動は次のようなものがあります。

- ①春日井市民美術展覧会（書道部門は毎年400点以上の出品）
- ②小野道風公奉賛全国書道展覧会「道風展」（毎年7000点以上の出品）
- ③道風の書臨書作品募集（道風記念館主催）
- ④春日井美術協会展・書道パフォーマンス（春日井まつり協賛イベント）
- ⑤道風記念館「企画展」（書専門の講演、展示が常時行われている。）
- ⑥県下児童・生徒席上揮毫大会（27年度で80回の伝統行事）
- ⑦市内38小学校中20校に書道科増設。（1年生から毛筆書写教育実施）
- ⑧鳥居松地区商店街活性化の取り組み（児童・一般の書道作品をステッカーにして商店街の街灯に街角メッセージとして貼付する）
- ⑨小野道風研究（「ふるさと春日井学」研究フォーラム）等々……



新しい企画で良いアイデアだと思います！
道風くんもいい発想ですね！
書道甲子園も春日井で・・・道風くんに提言
します！

「地方創生」が喧しく論じられています。ふるさと春日井のスローガン「書のまち」は全国どこにもないすばらしいロゴだと思います。三蹟小野道風の持つ歴史性とそれを敬い、慕い、愛着を持ち続けてきた地域の人々の誇りと伝統を継承して行こうとする精神性が書道文化を地域に根付かせてきました。今日頑張っている①から⑨までの取り組みを見ればそれがよくわかります。春日井というところは、そういう地域（地方）なのだと思います。「文化教育遺産」に匹敵するといってもよい80年の伝統を継承してきた「児童・生徒席上揮毫大会」の教育実践と歴代の作品群は正に教育遺産であるといってもよいのではないのでしょうか。「地方創生」の財源はこうした文化遺産に値するものに使ってもらいたいものだと思います。道風記念館は、書道専門博物館として「書のまち」にふさわしい特色ある美術館です。地域創生・再生・活性化の基本的条件である歴史性、精神性、文化性を充分もった市民自慢の財産です。拡充、整備が必要となってきています。こんな地方の特色に地方創生の資金を使ってもらいたいものです。春日井市頑張れと言いたい。

(文責：河地 清)

商店街街路灯 100 本近くに
「街角メッセージ」として
掲示されています。創意工夫で
「書」の風景が広がっています。



次回 「ふるさと春日井学」

研究フォーラム (案内)

第 31 回

日 時：平成 27 年 9 月 6 日 (日) 13:30～15:30

① 『ふるさと春日井の自然—ほたるのロマン—』

発表者：野田 淑人 氏 (春日井ビオトープの会会長)

② 探訪『高貝用水の今昔』

発表者：塚田 忠雄 氏 (「ふるさと春日井学」研究フォーラム副会長)

場 所：市民活動支援センター・ささえ愛センター 2階第1集会室

フォーラム内容：ほたるの飼育から放流活動で自然保護・高貝用水開鑿に尽力した加藤重兵

衛と用水の今昔・・・続きはFORUMで（2本の発表です。）
（各回非会員の方のみ資料代 500 円徴収させていただきます。）

第 2 回

「ふるさと春日井学」歴史巡検バスツアー

「道風縁地-小野道風終焉の地を訪ねる-」

日 時・集合：2015.9.25(金) 出発 JR 神 領駅(南側) ローソン前 7:30

JR 春日井駅(北側) 愛知銀行前 7:40-45

行程：東名高速道路春日井 IC→(途中、名神 SA でトイレ休憩) →京都東 IC →京都市内街
→162 号線(周山街道) →杉坂口→11:00 道風神社(見学1、小野神社) 12:00→周山
街道を戻り、12:30 妙心寺花園会館で昼食～13:30 市街地を横切り東山地区へ→
14:00 高台寺(見学 2、道風が亡くなった雲居寺のあった所、雲居庵として名を残す)～
15:30→15:50 井筒八橋本舗でお買い物 →名神京都東 IC より帰路→春日井 IC→春
日井駅 18:15 頃着 神領駅 18:30 頃着

費用：昼食(2千円)・保険込み合計1万1千円

定員：25名(定員に達しましたので締め切らせていただきました。)

(主な見所)

見所 1 京都北区杉坂に「武大明神」を祀る小さな祠あり。祭神は小野道風朝臣。

道風神社前の金辻さんのところで「由緒略記」「御札」「参拝記念印」を求めることができる。その「略記」によると、道風公が杉坂の産土神「和香社」より湧出する霊水を所望して、宮僧の宿舎である明王寺(本尊不動明王)に業を修め、栄達の結縁により氏神に斎(いわ)い祀られたとある。社室はいずれも 18 世紀のもの。明治 2 年に廃寺となり文献・備品は散逸。

見所 2 小野道風の亡くなったところは雲居寺。高台寺の入口右手に雲居庵がある。その位置ではないかと推定する。秀吉の妻北政所(ねね)が秀吉の菩提を弔う寺にひそかに残された場所か? 案内板には書かれていない。道風終焉の地とされている。その風景を見て歴史のロマンを体感する。

見所 3 周山街道を走るバスから、川端康成の小説『古都』の舞台となった北山杉を磨く双子姉妹の恵まれない方が、手が荒れるのに素手で北山杉床柱を磨く映画のシーンの撮影場所の中川が見える。北山杉の山林は圧巻。

事務局：〒486-0825 春日井市中央通り 2-9 TEL・FAX0568-82-5973 会長 河地 清

mail address:kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp

かすがい市民活動情報サイト：<http://kasugai.genki365.net/>

ふるさと春日井学検索